

# 春菊（キク科）

## 【特徴】

生育適温は15～20℃で、冷涼な気候を好む。品質の良いものを生産するためには、10℃以上、25℃以下の温度が必要である。耐寒性は、ほうれん草より弱く0℃前後から寒害をうける。土壌適応性は広いが、有機質の多いよく肥えた水はけの良い条件を好む。種子の発芽有効年限は3～4年である。

## 【作型と品種】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	主な品種
秋まき									○	□			大葉種 中葉種

西日本では大葉種の栽培が多い。

## 【作り方】

### 1. ほ場の準備

生育期間は短い作物であるが、浅根性で乾燥には弱いので、保水性、排水性のある土作りをする。

基肥は全面に施し、よく耕しておく。土質や前作との関係、ハウス栽培であるかどうかを考えて施肥料は加減する。うねは平うねが一般的である。

### 2. 種まき

#### 種の準備

種には休眠があり、採取後2か月くらいは発芽が悪い。新しい種は9月中旬以降に使用するほうがよい。種の寿命は3～4年であり、1年以上たった種では、炭そ病の発生が少なくなるので、1年以上たった種を使用する。

種子量は移植栽培で0.13L/a直まき栽培で0.5L/aを目安に準備する。

#### 種まき

直まきの場合は、条間20～25cm、株間7cmの1～2粒まきとする。光を好むので薄く覆度をして軽く鎮圧し、その上に寒冷紗やわらを取り除く。

移植の場合は、ほ場1aあたり10㎡の苗床を準備する。種まきの10日前に堆肥や石灰資材を入れて、できるだけいねいに耕し、幅120cmのうねを立てる。苗床に種をばらまき、または条まきする。

#### 間引き・定植

直まきの場合は、本葉2～3枚頃に株間7～10cmの1本立ちとする。

移植の場合は、本葉2～3枚（育苗日数25日くらい）の苗を条間20～25cm、株間7cmに定植する。

#### 水やり

種まきの前後は、水を十分にやる。生育の中期以後は、水はできるだけひかえめにして、ハウス内が多湿ならないように注意する。収穫の1週間前からは、水やりを中止して品質の充実をはかる。

#### 温度管理

生育適温は15～25℃で、ハウス栽培の場合は日中25℃以上にならないように注意する。夜温は10℃以下になったら、ハウスのサイドヲおろして保温する。12月～3月の厳寒期には内張りもして、なるべく5℃以下にならないようにする。寒害は0℃以下になると症状がみられるようになる。

## 【病害虫の防除】

病害ではべと病、炭そ病、虫害ではアブラムシ等が発生するが野菜の中では比較的病害虫の発生が少ないほうである。

## 【収穫】

草丈が20cmくらいになったときに順次抜き取るか、生長点部分を含む5～6枚をとる。腋芽の利用も可能である。